

# 「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」暫定一覧表骨子（案）

1. 名称：「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」

2. 所在地：新潟県

## 3. 概要

ア) 金を中心とする佐渡鉱山の遺産群（以下、本節においては「佐渡鉱山」と呼ぶ。）は、400年以上にわたって国内外の金・銀の採掘技術・手法を導入し、発展させることにより、一連の鉱山技術・鉱山経営手法に基づく文化的伝統が形成された。それは、遺跡・建造物・鉱山都市・集落として良好に継承されており、他のアジア地域の鉱山においては今や見ることでできない希少な人類の歴史の物証である。

イ) 佐渡における金銀採掘の歴史は古代の西三川砂金山の砂金採取に始まり、16世紀中頃、露頭掘りによる鶴子銀山や新穂銀山の開発を経て、相川金銀山の発見により最盛期を迎えた。17世紀初頭、江戸幕府は国内各地から山師を集め、最先端の測量・採掘・製錬技術を開発した。その結果、当時としては類例の少ない坑道掘りによる鉱山として、17世紀前半には日本最大の金銀山として極めて重要な位置を占めるようになった。特に、石見銀山から伝来した灰吹法や、焼金法などの金と銀を分離する手法及び寄勝場など工場制手工業に基づく運営形態など、近代以前の採鉱から製錬に至る一連の鉱山技術及び鉱山経営手法が佐渡において発展・確立し、他の鉱山へと波及した。また、佐渡鉱山では、採掘・製錬のみならず、最終的に金貨幣の製造にまで至る一連の過程が一つの鉱山において完結した点も重要である。

ウ) 1868年の明治維新後に官営化され、その後三菱により民営化された佐渡鉱山には西洋の鉱山技術の積極的な導入とその変容・発展が進み、20世紀前半には、アジア最大級の規模を誇る近代的な浮遊選鉱場や製錬施設が建設されるなど、国内及びアジアの鉱山開発に対して、技術的な側面における影響を与え続けた。

エ) こうして、佐渡鉱山は、江戸幕府や明治政府の社会・経済体制の重要な基盤を成すとともに、佐渡鉱山から産出した金は金本位制を基準とする国際経済にも大きな影響を与えたことから、その関連の遺産群は世界的にも極めて重要である。

オ) 現在、佐渡には、西三川砂金山及び道遊の割戸を中心とする遺存地形、大立堅坑・北沢浮遊選鉱場・大間港等に代表される近代鉱山遺跡群が残る。これらは、近世から近代にかけての鉱山技術及び経営の導入・発展の各段階を代表する技術の傑出した集合体である。さらに絶え間ない採掘技術・手法の導入・発展は、金を中心とする一連の鉱山技術・鉱山経営手法に基づく文化的伝統をもたらし、佐渡鉱山の遺跡・建造物や現存する鉱山都市・集落として良好に継承されている。

カ) このように、佐渡鉱山は、約 400 年にわたり経営された金銀山に関連する遺跡・建造物・集落などが広く分布し、金を中心とする鉱山技術・鉱山経営手法の変遷と、それによって形成された文化的伝統の総体を目の当たりにできるアジアの鉱山遺産である。

#### 4. 顕著な普遍的価値の根拠

ア) 金を中心とする佐渡鉱山は、400 年以上にわたって国内外の採掘技術・手法を導入し、発展させることにより、一連の鉱山技術・鉱山経営手法に基づく文化的伝統を形成した。それは、佐渡鉱山の一群の遺跡・建造物・鉱山都市・集落として良好に継承されており、アジアの他地域の鉱山においては今や見ることのできない極めて希少な物証である。

イ) 近世から近代にかけての鉱山技術及び鉱山経営手法の導入・発展の各段階を代表する技術の集合体としての傑出した類型である。

ウ) また、近代以前の採鉱から製錬に至る一連の鉱山技術及び鉱山経営手法は、明治維新後の西洋鉱山技術の導入により、佐渡においてさらなる変容・発展をとげ、国内及びアジアの鉱山開発にも影響を与えた。

エ) さらに、佐渡鉱山において製造された金貨幣は江戸幕府の社会・経済体制の重要な基盤を成すとともに、佐渡鉱山から産出した金は明治以降においても政府の基盤を成し、結果的に金本位制を基準とする国際経済にも大きな影響を与えた。

オ) 以上の理由により、佐渡鉱山は、日本のみならずアジアを代表する稀有な鉱山の遺産として顕著な普遍的価値を持ち、世界遺産一覧表の調和と代表性を確実にする上で意義のある資産である。

#### 5. 適用が考えられる基準

- (ii) 中国大陸から石見銀山を通じて伝来した灰吹法をはじめ、焼金法などの金と銀を分離する手法及び寄勝場などの工場制手工業に基づく運営形態などは佐渡において発展・確立し、国内の他の鉱山へと波及した。これらの鉱山技術及び経営手法は、明治維新後の西洋鉱山技術の導入により、佐渡においてさらなる変容・発展を遂げ、国内の他の鉱山の発展を牽引するのみならず、東アジアの鉱山開発にも影響を与えた。また、佐渡鉱山において製造された金貨幣は江戸幕府の社会・経済体制の重要な基盤を成すとともに、佐渡鉱山から産出した金は明治以降においても政府の基盤を成し、結果的に金本位制を基準とする国際経済にも多大なる影響を与えた。

したがって、金を中心とする佐渡鉱山は、東アジアにおける鉱山技術及び鉱山経営の価値観の交流のみならず、世界経済における価値の交流においても、重要な役割を果たした。

(iii) 国内外の最新技術を取り入れ、400年以上にわたって我が国の金銀生産を牽引してきた佐渡鉱山の一連の鉱山技術及び鉱山経営手法は、江戸幕府や明治政府の社会・経済体制の重要な基盤を成した。絶え間のない採掘技術・手法の導入・発展がもたらした鉱山技術・鉱山経営手法に基づく文化的伝統は、良好に遺存する佐渡鉱山の遺跡・建造物や現存する鉱山都市・集落により余すところ無く例証されており、アジアの他地域の鉱山において今や見ることのできない極めて希少な物証である。

したがって、佐渡鉱山の遺産群は、アジアの鉱山技術及び鉱山経営手法に関わる文化的伝統の希少な存在である。

(iv) 露頭堀等により形成された遺存地形、近代鉱山遺跡群等は、近世から近代にかけての鉱山技術及び経営の各段階を代表する技術の集合体の顕著な事例である。

したがって、それらの一群の事例は、近世及び近代の鉱山技術分野における人類の重要な段階を総体として表す傑出した類型である。

## 6. 真実性・完全性

ア) 金を中心とする佐渡鉱山の遺産群においては、考古学的研究や文献史料に基づく歴史考証等によって、鉱山技術及び鉱山経営手法に関わる文化的伝統の特質が明示されているのみならず、採掘に関する遺構・遺物が良好な状態で保存されており、その真実性は十分に保持されている。

イ) 佐渡鉱山の遺産群には、一連の鉱山技術及び鉱山経営手法に関わる文化的伝統の物証が余すところ無く含まれ、資産の完全性は十分に確保されている。

## 7. 類似資産との比較

ア) 金銀の鉱山関連遺産については、すでに世界遺産一覧表に記載された鉱山関連遺産、各国の暫定一覧表記載の鉱山関連遺産があるが、アジア地域において、長期間にわたる金銀鉱山の採掘技術の発展と鉱山経営に関する文化的伝統の蓄積を示す類似資産は存在しない。